

県民を裏切り名護市辺野古への新基地建設を容認した自民党沖縄県連国会議員を糾弾し、辞職を求める

—仲井真知事に海の埋め立て申請却下を求める運動と名護市長選挙勝利へ支援広げよう—

2013年11月26日 日本平和委員会

昨日、自民党沖縄県連に所属する5人の国会議員は、自民党本部の圧力に屈し、選挙の際に掲げていた「普天間基地の県外移設」の公約を投げ捨て、全員が米軍普天間基地の名護市辺野古への移設＝新基地建設を容認する立場に転じる姿勢を表明した。

これが選挙公約を守るべき議員の最低限のモラルを投げ捨てた、民主主義破壊の低劣な行為であることは明白である。公約を平気で投げ捨てる者に議員の資格はない。我々は、これらの議員の即時辞職を求めるものである。

この暴挙は、沖縄県民の命と安全、民意よりアメリカの軍事的要求を優先する党本部の圧力に屈し、県民に背を向ける行為以外のなにものでもない。

自民党本部がこのような圧力をかけてきたのは、来年1月の名護市長選挙を前に、県民世論を分断し、仲井真知事に新基地建設のための公有水面埋め立て申請許可の結論を出させようとするねらいからである。

しかし、このようなことで圧倒的多数の県民の普天間基地の閉鎖・撤去、県内移設反対の意思を屈服させることはできない。それは、戦後68年間の米軍支配との辛苦のたたかいの上に形成された強固なものである。その裏切りは、広範な県民による厳しい批判に包囲され、孤立を深めざるをえないだろう。

私たちは、オスプレイ撤去、普天間基地の閉鎖・撤去、新基地建設反対を求める県民ぐるみのたたかいといっそう連帯し、仲井真知事に新基地建設のための公有水面埋め立て申請却下を求める運動を強める。そして、来年1月19日投票の名護市長選挙での「名護市の陸にも海にも新たな基地は作らせない」の立場を貫く稲嶺進市長の再選のために、全国的支援をいっそう強める決意を、ここに表明するものである。

【抗議先】

比嘉奈津子衆院議員 電話 03-3508-7261 FAX03-3508-3531

宮崎正久衆院議員 電話 03-3508-7165 FAX03-3508-3715

国場幸之助衆院議員 電話 03-3508-7741 FAX03-3508-3061

西銘恒三郎衆院議員 電話 03-508-7218 FAX03-3508-3218

島尻あい子参院議員 電話 03-6550-0405 FAX03-6551-0405

【要請先】自民党沖縄県連支部連合会 電話 098-868-0040 FAX098-860-2310

